

# 土壌医検定 1 級合格体験記

井田 憲治

## 1 土壌医検定を知る

私は6年ほど前、それまでは仕事の合間に米作りや家庭菜園などやっていたのですが、定年後に就農する事を考えて農林大学校の社会人コースに通っていました。

土壌医検定のことを知ったのは当時の土壌学の先生から、「土壌医検定というのがあるので、受けてみないか」という話があったからでした。

私は学業や就農準備と多忙なこともあって卒業してから受験することにして、就農2年目に土壌医検定2級を受験し合格しました。

## 2 土壌医検定 1 級受験のきっかけ

以前から私は Facebook をやっていて、FB 友達で同時期に土壌医検定2級に合格した岡山の S さんから1級を目指すので一緒に受けてみないかと誘いがありました。が、2級に受かって気が抜けていた事や、農業経営を軌道に乗せるのに精一杯なのと、すぐすぐに1級を目指さなくても、いいかなと思っていた事もあり、受験は後の機会にすることにしました。

その後、Sさんは勉強の甲斐があり翌年の土壌医検定1級試験に見事合格しました。私は、同世代のSさんが頑張って土壌医検定1級に合格したのだから私も何とか頑張らなければ、と言う事で土壌医検定試験に臨むことにしました。

## 3 受験対策

1級の試験は4択のほかに記述問題と業績レポートがあります。4択は2級の試験の時に経験していたので、それほど抵抗感は無かったのですが、記述問題は予想を立てるのが難しく業績レポートは何をどう書けば良いか見当が付きませんでした。

私にとって業績レポートは最大の難関で、これに20点以上を取らないと、いくら問題が解けても合格にはならないので、これがダメなら諦めるしかありません。何を題材にするか色々考えた結果、就農当初からやっているナスの溝施肥と、土壌診断による施肥設計、それとマイエンザを使った堆肥投入による土壌改良と言う事で業績レポートを書くことにしました。

1回目の受験では、業績レポートは合格点のBをもらいましたが、他の試験が合格点に至らず、残念な結果に終わってしまいました。反省点として最大の敗因は4択に時間がかかり過ぎ、記述問題を始めた時刻が残り10分という事で殆ど問題を解けなかったことです。2級の時は4択だけだったので、時間ギリギリで60問を回答できましたが、さすがに1級は甘くはありませんでした。

私は、次の試験までの約10ヶ月の間に何が出来るか、どう受験対策を立てるかを考えました。そして、次回から参考書が改訂され試験内容が変わると言う事もあり「新しい参考書を3回以上は最後まで熟読し、問題集の問題を2級を含めて完璧にマスターする」と言う目標を立てました。

参考書については新版の発行が予定より遅れていたもので発行されるまでの間、旧版のものを読み解き、問題集の問題は11月ごろから集中して行うようにしました。同じ問題を何度も解いていると回答を覚えてしまうので、なるべく同じ問題は時間を開けて解くようにしたり、自分で問題を想定し解いたり、問題集に出てくる「正解はどれか」という問題は正解の問題を、「間違いはどれか」という問題については、正解が書かれている問題を覚えるようにしました。また、コロナの関係からか、今年度から有料にて土壌医検定研修会資料が頒布される事になったので取寄せて試験に備えました。研修会資料は読んでみると土壌医検定対策用とあって内容がまとまっていて結構役立ちました。



#### 4 試験本番

試験会場は、最初は埼玉大学だったのですが、渋谷のフォーラムエイトに変更になり受験者には多少の混乱があったようです。私の場合、群馬県から埼玉大学へは電車で最寄駅からバスかタクシーで行く、又は高速を使って会場近くまで行き有料駐車場に車を置くかする予定でしたが、会場が変わって渋谷まで湘南新宿ラインで乗換なしでスムーズに行くことができました。

渋谷にはお昼ごろ到着したので食事の前に会場の下見をするため、徒歩でフォーラムエイトまで行ったら、すでに受験者が集まっていました。ちょうどエレベーターに乗り合わせた数人の女性たちと話をしたところ、3級を受けに来ていると言う事で「お互い、頑張りましょう」と別れて、近くの食堂で軽い食事をとってから試験会場で時間まで研修会資料に目を通していました。

試験開始前には土壌協会の松本先生から注意事項と試験の説明があり、配られた問題と回答用紙に氏名と受験番号等を記入し、試験開始の合図で時間通り試験が始まりました。

まず、4択の問題は努力の甲斐があつてか、50問を40分程の時間で終わらせる事ができ、残り30分程で記述問題と格闘しました。しかし、普段パソコンに依存しているせいか、焦っていたためか漢字が思い出せず、平仮名カタカナ交じりで回答を書いたものもありました。4択の何問かは引っ掛的な問題があったので、最後の見直しをしているうちに試験が終了し、問題と回答用紙が回収されました。

その後、松本先生から今後のスケジュールについて説明があり、「来年も試験はあるので、気楽に来年も受験してください」と話されていましたが、「来年の話は、〇〇が笑うんじゃないかなっけ、できれば試験は今年で終わりにしたいよ～」と、心の中で思っていました。

2月14日の予定はすべて終わり一段落したので、バレンタインデーと言う事も有り寄り道をして池袋の地下街で夕食のお弁当を買って湘南新宿ラインで帰路につきました。

#### 5 試験結果

3月には2、3級の試験結果が発表され、FaceBookでは、合格者の嬉しい報告があり、私も仲間入りできれば良いなと思っていました。また、4月19日には合否の判定が下り今後の対応が決まるので発表が待遠しくもありました。

試験結果の発表は午後2時ということで、2時ちょっと前に土壌医検定のホームページを閲覧したら、すでに1級の合格者が発表されていて1級受験者67名、合格者19名と言う事でした。そこには私の受験番号も載っていたので、やっと肩の荷が下りました。

#### 6 今後の目標

私は、合格するまでは何回でも土壌医検定にチャレンジするつもりでしたが、受験体制を維持するためのモチベーションを保つのは容易ではありません。1級の試験は思った以上にパワーとスピードが必要です。4択の問題は一つの問題に引っかかり考えてしまうと時間をロスするので、数多く何度も問題を解いて1問にかかる時間を短縮できるようにして記述問題に時間が取れるようにすると、気分的にも余裕ができるようです。ぜひ3級に合格した人は2級へ、2級に合格した人は1級を目指してください。

これからは土壌医検定で得た知識をもとに、定期的な土壌診断や生育診断を行えるようにして、土壌改良を行って安定した作物生産が行えるような圃場環境作りを目指したいと思います。また、土壌医として家庭菜園を楽しむ人や農業者に、土壌医検定や土づくりの重要性の認知と、後継者の育成に力を入れて地域で活動をしていきたいと思っています。

